

活躍する理科大学生



東京理科大学新聞

【発行所】
東京理科大学新聞会

<住所>
〒162-0825
東京都新宿区
神楽坂1丁目3番地
2号館 2515 部室

<連絡先>
E-mail
tuspress@gmail.com
HP
http://tuspress.jp
Twitter
@tuspress

- 4 1年生に聞いてみた！
理科大は忙しい？恋人はできそう？
- 3 格闘技サークルに潜入してみた
小説
- 2 学生用ロッカー新設！
公務員という選択

『ガイアの夜明け』などのテレビ、新聞、インターネットと、幅広いメディアで注目を集めている「マッスルスーツ」。その開発者であり、本学のOBでもある小林宏教授に、実用化に至るまでの話、そして学生時代の小林教授についても取材した。

肉体労働の負担軽減へ

マッスルスーツは「生きている限り自立した生活を。」という目標を掲げている。肉体労働者は、腰に負担をかけやすく、痛めてしまうという現場を知り、そ



▲マッスルスーツを利用した介護の様子

うした人たちの負担を減らす目的で開発された。現在では肉体労働に従事している工場、物流、農業、介護と幅広い現場で活用され、労働者の体を支えている。マッスルスーツは小林教授が創業した株式会社イノフィスが開発、販売しており、理科大発ベンチャー（※1）として本学ホームページにも紹介されている。

小林教授は「役に立つモノを作りたい」と思い立ち、人にとって自分で動ける（自立する）ことが重要だと考えた。これが始まりとなり、2001年、マッスルスーツの開発は始まった。

小林教授は1986年に工学部第一部機械工学科に入学、博士課程までを本学で修了した。当時はストリート、四年で卒業する人が約半数しかいないほど厳しい時代であったという。バドミントン部に在籍し、平日は学業、休日は部活に精を出し、多忙な学生生活を送っていた。現在はバドミントン部の顧問をしている。しかし、忙しいこともあり、活動に参加できないのが残念とのことだ。

特に大変だったものに卒業論文を挙げた。当時はパソコンなどを用いず、手書きで卒業論文を完成させなければならなかった。本学学生であれば手書きで卒業論文を完成させる苦勞は容易に想像できるだろう。小林教授の1学年下から、パソコンでの卒業論文の作成が始まり、さらに修士を卒業してすぐにエアコンの設置が始まるなど、下級生を羨ましく思ったに違いない。

使命

エンジニアとしての

小林教授は現在までに日本機械学会から論文賞を4回受賞している。過去に同賞を4回受賞している人は少ない。しかし、それ以上に「一人のエンジニアとして、役に立つものを作りたい」という思いが強い。

小林教授は現在までに日本機械学会から論文賞を4回受賞している。過去に同賞を4回受賞している人は少ない。しかし、それ以上に「一人のエンジニアとして、役に立つものを作りたい」という思いが強い。

Profile

東京理科大学 教授
小林 宏（こばやし ひろし）
静岡県沼津市出身



- 1990年 東京理科大学工学部第一部機械工学科卒業
- 1995年 同大学院博士課程修了。博士（工学）
- 1992年 日本学術振興会特別研究員（3年間）
- 1996年 2年間、日本学術振興会海外特別研究員として
チューリッヒ大学人工知能研究所に在籍
- 1998年 東京理科大学工学部第一部機械工学科講師
- 1999年 同助教授、2008年より現職

・日本機械学会から唯一、論文賞を4回受賞

※1 理科大発ベンチャー
↓本学の教員などが起業する際、学内組織である研究戦略・産学連携センターが支援、後援し、研究開発、社会貢献を後押しする制度。
大学発ベンチャー企業
・株式会社イノフィス（マッスルスーツ開発・販売）
・アクティブ株式会社（エコロジー・高性能樹脂、バイオ事業）
※2 ドローン (drone)
↓遠隔操作可能な飛行物体。主に空撮などで用いる商用の小型から、大型の軍用まで種々ある。2015年4月には首相官邸に危険物を載せたドローンが落下し危機感を抱かせた。対して、ドローンを有効的に使おうと、宅配に利用する試みが千葉県で行われ、話題を呼んだ。

私が君に何か伝えられることがあるとすれば、それは「海外に行くこと」だ。小・中学校で約5年間メキシコに滞在していた私にとっては、いっそ語学経験は二の次で、もっと大切なことを知った。それは「自分にとっての当たり前は可変である」ということだ。▼ここは日本、時間に縛られて生きているような場所の中で、一部の路線を除いて電車やバスが遅延するのはなかなかないのは事実である。しかしメキシコでは地下鉄、バスには時刻表がまったくなく、しかも驚くべきことに、一般のバスに限っては停留所などなく、周回ルートの中でなら、どこで乗っても降りても大丈夫なのだ。このように、日本とは違って時間縛られて生きている人たちは決してないのだ。これはどちらかが良いとか悪いとかかを決めつけるものではない。これらを実際に良くも悪くも経験したことで自分の中の「当たり前」が崩れるのを実感することが大切なのである。▼では当たり前が崩れたら何がかわるか。私は「順応力」があった。そして、これによって余裕が生まれ、自分以外の世界にも目を向けられるようになり、他者の考えも受け入れられやすくなった。「自分にとっては当たり前かもしれないが、この人にとっては違うのかもしれない。」この視点を持つことによって、自己の確立とともに相手の考えをすつと共有できるようになるのだ。君のお土産話を期待して待っている。（あんじえ）

キャリアス就活フォーラム

東京理科大学のみなさん！ = イベント開催のご案内 =

社会人と気軽に話せる

自分に合うプログラムに出会える！

ノウハウ講座も充実！

インターンシップのすべてが分かる1日！

「インターンシップ&仕事研究」

入場無料 学年不問
入退場自由 私服参加

6/25 (土)

同時開催 土木・建築系学生対象 「インターンシップ&仕事研究」
東京ビッグサイト<西展示棟>
OPEN 11:00 CLOSE 18:00
[ソーシャルパーティー 17:00~18:00]

インターンシップイベント参加者数 No.1*

参加申込受付中！
詳しくはWEBで！

キャリアス就活2018

キャリアス就活2018 SEARCH
https://job.career-tasu.jp/2018/

@careertasu_18
キャリアス就活2018



*2015/6 ~ 2016/2 開催全国のべ動員数